加治木町政だより

発行所　加治木町役場
発行人　岩元房友
編集者　中元邦夫
印刷所　ゆのき印刷所　加治木町瀬山通り

加治木町人口

男	10・020人
女	10・559人
計	20・579人
世帯数	4・735戸

—(11月1日現在)—

町役場機構改革

一室七課を五課に

先般招集された本年度第三回定例町議会に町部課設置条例の全部を改正する条例、任命制による初の教育委員の任命同意、町議会委員会条例の改正その他が提案されたが部課設置条例の全部を改正する条例は諸般の情勢により従来の企画室、総務・戸籍・税務、建設、民生、商工、農務の一室七課を大幅に改革、企画室と戸籍課を総務課に統合、農務課、商工課を廃し経済課を新設して十月十五日から五課とするというのである。支所はそのまゝ存置されるわけであるが本件は原案通り可決された。

事務機構は今までの課長補佐制度を全面的に廃し、課長の下に係員をおき、係長制度を採用して町行政の適正化と、事務能率の増進を図ることになつた。町長はこの改革に伴う人事異動を十一月一日付で次のとおり発令した。(内は前

○経済課長白尾親志(農務課長)○税務課長久保園盛治(建設課長補佐)、○建設課長兼庶務係長日高金吾(総務課)○民生課長兼失対係長宮田実(税務課長)、○総務課戸籍係長恒吉晃(戸籍課長)、○総務課庶務係長岩屋検(総務課長補佐)、○総務課企画係長末永菊雄(商工課長補佐)、○同水道係長原口清憲(企画室)、○同会計係長、西別府、辺川岩原各支所長兼務吉薗清(同課)、○総務課勤務増田繁(西別府支所長)、○経済課農林係長貫島栄(農務課)○経済課振興係長中元邦夫(農務課長補佐)、○経済課商工係長神田貞蟲(民生課長)、○税務課庶務係長黒田伊熊(商工課長)、○税務課課税係長鈴木一夫(税務課長補佐)、○税務課徴税係長市来原盛吾(農務課長補佐)、○建設課土木係長時任泰(建設課長)、○建設課建築係長川畑徳太郎(同課)、○民生課衛生係長村橋久雄(税務課)○民生課厚生係長坂部実(同課)、○小山田支所長山元吉之助(民生課長補佐)、○税務課勤務徳重渉(小山田支所長)、建設課勤務並に総務、経済課兼務内野博(農務課)、○税務課勤務緒方友記(農務課)、総務課勤務阿久根雪江(小山田支所)、○経済課勤務川辺宏(戸籍課)、○税務課西別府支所駐在堂森重義(同課)、○税務課小山田支所駐在日高辰男(民生課)○総務課勤務森木幸雄(建設課)

人権擁護委員に

中摩直治氏発令

人権擁護委員は町に一名おかれることになつているが、八月十五日で任期満了となつたのでこの程引続き委員に反土竹下部落中摩直治氏が法務大臣から発令された。

新教育委員きまる

教育委員会法の改正に伴う任命制による初の教育委員には左記の五氏が任命され、十月一日第一回教育委員会をひらき、任期、委員長などを次のとおりきめた(数字は任期)

市来　朴(四)
委員長、教育長
岡山順之助(四)
委員長代理
大山　綱男(三)
中村　敬次(二)
市来原静男(一)

なお教育長職務代行者に総務課長美坂銀治氏を定め会議規則など決めて散会した。

生活改善

収穫の秋に思う事

生活改善普及員　須藤さだみ

収穫の秋が参りました。台風のため減収とは言え出来秋の喜びは農家ばかりでなく、町民の皆様方の胸に一杯の事と存じます。「出来秋位は白米の御飯を思う存分」と無計画な消費を考え勝ちなのも今です。然し後一年間喰べねばならないのですから、主食の一年間の配分計画は大変必要な事と存じます。又国全体の大きな立場から眺めた場合にも三度に一度は粉食をとらねばなりません。米の御飯ばかりが有難くてそれに代るものはいわゆる代用食と言つて軽蔑する傾向はないでしようか。主食は私達仏くための力になる熱量の多い炭水化物であればいいのです。米一合の熱量に相当するものをあげてみますと押麦、粟なら一合、小麦粉そば粉なら一合三勺、干うどんなら四〇匁、食パンなら一斤から、芋ならば中位のものが二個あれば良いわけです。

今年はから芋の豊作だと聞きました。主食に、間食に利用価値の多いから芋を栄養的に喰べる工夫をしましょう。から芋を主食に置き換えた場合は、蛋白質は米の五分の三、脂肪は三分の一しかありませんので副食で補わねばなりません、

(大根、人参、切り昆布のなます)

私達は長い間の食習慣から主食に頼りすぎています何でもいいから腹一杯という満腹主義から栄養的な食事へだんだんと切り換えて一年間の主食の配分計画をたてたいと思います。

産米改善運動

農家の皆さん!!

品質の良い米を出荷しましよう

全国的には昨年の豊作につゞいて今年も米は平年作を上まわるものといわれているが、いよいよ「みのりの秋」来れりで、農家は一

〝みのりの秋〟　とり入れどきが一番の農繁期

間食にしても良くその点を考えるべきです。から芋は甘味が多いので副食は辛いものが合います。

例　▼小魚のおろし和え(小魚の揚げた物を大根おろしの三杯酢で和えたもの)
▼ほうれん草落花生和え(抜菜でも良い落花生を潰して和えたもの)
▼三色なます　(大根、人参、切り昆布のなます)

私達は長い間の食習慣から主食に頼りすぎています何でもいいから腹一杯という満腹主義から栄養的な食事へだんだんと切り換えて一年間の主食の配分計画をたてたいと思います。

新米は乾燥が第一

規格に外れると大きな損

この産米改善運動については十月二十二日付(三一経第二二五号)をもつて部落嘱託員あて通知いたしましたが、簡単にいゝますと検査に合格するよい米を出して下さいという事であります。それではどんなことかと申しますと、第一に乾燥を十分に行う事で、例えば水分の多すぎる米を出して規格に外れると石当り三〇〇円程度の損をしなければならない。第二には完全に包装するということで、叺は予備検査に合格した新叺一等品を使用し、なわは三分五厘ー四分なわを用いなわがけは正しく、しつかりしめる。第三は量目を正しく(正味六〇キロ±十六貫)して下さいという事です。それでは次に等級区分についてお知らせします。

等級区分は昨年とどう変つたか

一般の玄米については古い規格の一等と二等を含せて一等とし、三等を二等に新しく三等を旧の三等と四等の中間におき、四等と五等は旧のまゝにした。この点が昨年と変つておりますこれを図で説明しますと次のようになります。

旧規格	新規格
1等	1等
2等	2等
3等	3等
4等	4等
5等	5等

全国的に産米改善運動にのり出している。

県下に知られた〝〝〝〝〝加治木トマト

小山田西浦農事研究会(会長高崎勝)は本年四月、七名の同志により結成、高冷地の夏秋作蔬菜園芸研究を共同プロジェクトに毎月一回技術員を招き研究を行い実績を上げている。中でも五月二十二日共同播種した抑制トマトは九月に来襲した二回の台風にひどい被害を受けたが、会員の熱心な手入れと技術員の指導により立派な商品として鹿児島市場に九月十日初出荷し十月二十日で終つたが、本年度はトマトの不作だけに県下の名産地、桜島ものを遙かにおさえ市場では珍しいものの一つとされ、加治木トマトは県下に好評を博した。

このことについて町の脇田技術員にきいてみると、最近町内に研究会も次々に生れ、会員も増え、熱心に経営改善ととり組んでいるのでトマトだけでなくあらゆる園芸作物の「加治木産地」獲得は遠い夢ではないと語つている。

たすけあい資金貸付規程

——就職仕度金や生業資金等に貸付——

前号第四四號町政だよりで「たすけあい資金」運動の主旨についてお知らせいたしましたので今回は資金貸付規程を掲載いたします。

(目　的)

第一条　この資金は生活困窮者に対し必要な応急援護資金を融通してその自立と生活の向上増進に寄与することを目的とする

(資　格)

第二条　この資金を利用せんとするものは左の各号の一に該当するものでなければならない。

①確実な事業計画を有し使途の明確なるものであること。

②本資金以外に借入の方法なき場合であること

③本貸付金の活用によりその経済的自立の助成を期し得るものであること。

④町内に六ヶ月以上住居を有する生活困窮者。

(資　金)

第三条　資金は加治木町社会福祉協議会の事業収入及び寄附金をあて漸次資金の増進をはかるものとする。

(設置と運営)

第四条　加治木町社会福祉協議会(別に運営委員会を設け民生委員部会が運営の中心となる)

(資金の種類及び貸付限度)

第五条　資金の種類は左のとおりとする。

①仕度金　就職に際し必要な身廻品を整えるための資金(直ちに必要な軽微な作業用具等を含む)

②事業継続資金　生業継続に必要な商品の仕入等に充当する資金

③生業資金　就職したものの或は生業に着手したものが最初の給与又は収入を得るまでの間の生活を維持するに必要な資金

④旅費　就職地が遠隔のためこれに要する旅費

⑤其他　窮迫せる事情のため緊急已を得ない出費を要する者

前項資金の貸付金額は資金の種類に応じ左のとおりとする。但し本会に於いて適当と認め且つ返済能力を確認したるときは参千円まで増加することができる。

①仕度金　弐千円以内

②事業継続資金　壱千五百円以内

③生業資金　参千円以内

④旅費　実費旅費の半額以内とする

⑤其他　壱千円以内

(返済期間)

第六条　貸付金は四ヵ月以内に均等償還するものとする。但し繰上償還又は代理人を定め償還することができる

(申込)

第七条　この資金を借受けようとするものは別紙第一号様式加治木町社会福祉協議会たすけあい資金申込書(以下借入申込書という)に左の書類を添え社協会長に提出しなければならない。

(一)就職決定証明書　公共職安所長又は雇傭主

(二)住住証明書　部落嘱託員

(三)副申書　担当民生委員

(以下省略)

これで大体わかつていただけたと思いますが、若し、わからない点がありましたら町役場民生課におたづね下さい。

加青協が優勝

郡西部青年相撲大会

蒲生町連合青年団主催の八幡相撲大会は去る十月三十一日、同町八幡境内で盛大に行はれたが、郡西部町村青年団対抗相撲に本町青年団も参加し熱戦のすえ蒲生町を破つて優勝した。代表出場者次のとおり

上村富夫(蒲生谷下)
西村照雄(隈原下)
簗瀬秀憲(岩原西)
渋谷奉男(下東木)

郡珠算競技大会

23日加中で

加治木商工会では、毎年姶良郡内の高、中、小、一般を対象に珠算競技大会をひらき、一般社会計算事務の能率増進と珠算の健全なる向上発展をはかつてきたが、本年度第七回珠算競技大会は来る十一月二十三日(祝日)午前九時三〇分から加治木中学校で開催される参加資格は年令性別に制限なく、姶良郡内に居住する一般人および郡内の勤務先又は学校に在るものであればだれでも参加出来る。参加希望者は十一月十六日まで役場商工係に申込めばよい。(参加無料)

町監査委員に

横山清氏再任

任期満了に伴う町の監査委員には、先般の町議会で横山清氏が任命同意を得たので向う三年間再任された

町消防團

辞令交付式

団長、副団長の任期満了に伴う後任者がこのほど決定したので町は十一月一日町長室で次の者に対し辞令交付式を行つた(内は前

○団長山元辰左エ門(留任)
○副団長森山青次(副長)、
○中央分団部長中島武彦(班長)、○同部長竹之内親雄(班長)、○中央分団班長大吉操(団員)、○全中村昇(〃)、○全樋山大陸(〃)、
○全森木茂(〃)

これからの農業は「研究が第一」だ

町農業団体連絡協議会

成果を将来に期待して張切る研究会員たち

加治木町農業研究団体連絡協議会(会長片ノ坂登)は本年五月十九日「研究会員相互の情報交換、研究実績の普及、新技術の導入を図る」ことを目的として結成されたものだが、結成以来実績の向上を目指して活潑な活動を続けている。結成直後年間事業計画の線に副って、毎月一回理事会と現地検討会を併せて輪番で実施しているが、夫々の研究会が土地条件にあった研究課題をもって研究しているので、現地検討会は会員には非常に役立っており、多い時は五十名を超える出会者をかぞえ、最近では会員の数も漸次増えつつある。

結成当時は一二団体(一〇一名)であったが、その後曲田農事、丸岡農事、みろく四H クラブと次々に結成され現在では一五団体(一二〇名)に達している。会員は殆んどが青壮年であるとはいえ、中には主婦(六名)も加わり、殊に又七一才の長老者も会員として自家の農業経営改善に一生懸命といったところ。この研究会員個々の研究成果は将来に大きく期待されているが、現域では共同出荷態勢を整備強化するという事を強く考えているようだ。

なお、各研究会の組織状況と本年度事業計画は次のとおりである。

① 加治木町内農業研究団体組織状況

名称	発足年月	会員数	地域	年令 最高	年令 最低	年令 平均	性別 男	性別 女	研究会長名	主なる研究課題
西浦上農事	二九 四	八	小	四四	二九	三五	八		鶴田貞義	農家簿記を記帳し実態を把握して営農改善につとめる
隈原園芸	〃	一一	小	三八	二九	二八	一一		片ノ坂登	夏秋そさい栽培研究
楠原農事	三〇	五	小	二七	二一	二三	五		山下菊夫	畑作を主体とした甘藷増収と夏秋そさい栽培研究
木田農事	〃	五	中	三七	二六	二九	五		武田義則	普通作早熟蔬菜の栽培研究
西雛場園芸	〃	二	小	四五	二七	三四	二		坂元清行	高冷地夏秋そさい栽培研究
みろく農事	二七	一四	小	七一	三〇	四七	八		池田静夫	水稲、麦作改善と水稲増収栽培研究
塩入農事	二九	一〇	中	二七	二一	二三	一〇		大村清治	水稲早期作半促成早熟園芸
高井田農事	三〇	五	小	六八	二一	四〇	五		岩元秋夫	普通作早熟そさい秋冬作そさい栽培研究
桑迫農事	二四	一一	小	四五	一七	三〇	一一		今村貞夫	普通作夏秋そさい栽培研究
永原園芸	三〇	一六	小	四〇	二四	二七	一六		東　明	夏秋そさい栽培研究
西浦園芸	三一	七	中	三一	二三	二七	七		髙崎　勝	高冷地　〃
菖蒲谷農事	三〇	七	小	二八	二四	二六	七		向江利夫	普通作と夏秋蔬菜栽培研究
みろく4H	三一	四	小				四		横山和夫	早熟そさい、半促成そさい花卉栽培研究
曲田農事	八	八	小				八		岩崎　正	水稲増収と夏秋そさい栽培
丸岡農事	〃	五	小				七		中森初夫	普通作夏秋そさい栽培研究
一五団体		一二〇					一二四	六		

② 事業計画

月別	行事名	場所	説明
四月	現地検討会　理事会	木田	早熟そさい
五月	春そさい品評会		町、郡え出品
六月	農繁期のため行事行はず		
七月	現地検討会　理事会	稲原	甘藷作主体
八月	キャンプ訓練大会	隼日	判定鑑賞競技、農業テスト
九月	現地検討会　理事会	西浦町	抑制トマト、春播かんらん
一〇月	右仝	みろく	秋そさい栽培計画
一一月	現地検討会　理事会	ひなば	水稲増収栽培
一二月	品評会　秋そさい	隈原、永原	早播結球白菜栽培
一月	総会　半促成胡瓜栽培研究	桑、菖、曲	結球白菜　その他秋そさい
二月	現地検討会　実績発表会	高井田	秋そさい町、郡え出品
三月	先進地視察　理事会	塩入	下場地区研究会員
	現地検討会　理事会		全員半促成及び早熟そさい
			右仝

参議院議員選挙迫る

期日―十一月三十日

名簿未登録の方の受付は十五日まで

重成参議の急逝による参議院議員の補欠選挙が迫りましたので、この選挙について簡単に申述べます。

一、選挙期日告示
　十一月五日
二、候補者立会演説会
　十一月二十一日午前十時から柁城小学校講堂でひらきます。
三、投票日
　十一月三十日、午前七時から午後六時まで。但し第五投票所、ひなば分教場及び第六投票所、辺川鎮守校は午前七時から午後五時までです。
四、選挙人名簿に登録されてない方え
　去る七月の参議員選挙のとき選挙資格がありながら、選挙人名簿に名前のなかった人はいませんか。そんな人や、又新しく選挙権を得られた人はこんど補充名簿に申請しますので、お忘れなく申請して下さい。

選挙の都度問題になって困ることは名簿登録人員確定後、或は投票当日になってから自分の名前が名簿にないという異議申立の人があることです。これは法的にはどうにもなりませんので該当の方は次の事項を留意の上期限内に申請して下さい。

この名簿には、本人から申請がなければ登録できないことになっております。申請書は町役場内選挙管理委員会事務局にあります。

記

1 調製の現在期日
　十一月十日
2 登録申請期間
　十一月十一日から同十五日まで(五日間)
3 調製期間
　十一月十六日から同十八日まで(三日間)
4 縦覧期間
　十一月十九日から同二十一日まで(三日間)
5 確定期日
　十一月二十四日
6 登録要件中年令、住所の算定期日
　㋑年令　昭和十一年十一月十一日以前出生の者
　㋺住所　昭和三十一年十一月十一日以前から引き加治木町内に住所を有する者
7 次の名簿にのっていない人は申請しなければこの補充名簿に登録できませんので十一月十五日までに

町議会常任委員会は

総務　文教厚生　建設経済の三つに

本件は先般の定例第三回町議会で議員提出原案どおり可決されたもので、地方自治法の改正に伴い全面的に改正して従来の六常任委員会を三つに減らし、一人一委員とすることになった新しい委員会の構成は次のとおり。

総務委員会　(七)
　委員長　美坂猪三郎
　副〃　福留義弘
　委員　中摩仙
　　岩元武治
　　犬童秀清
　　山元辰左ヱ門
文教厚生委員会　(八)
　委員長　中村四郎助
　副〃　城松夫
　委員　浜田隼人
　　林新太郎
　　福島敬蔵
　　簗瀬連
　　川原光
　　岡山クニ
建設経済委員会　(八)
　委員長　岩屋繁
　副〃　犬童伝
　委員　髙田精二
　　中原茂
　　寺師秀雄

念のため一度みて下さい

去る七月参議員選挙に使用した名簿は【基本選挙名簿で、昭和三十年十二月二十日確定のもの】

補充名簿は【昭和三十一年七月五日確定のもの】です。(選挙管理委員会)

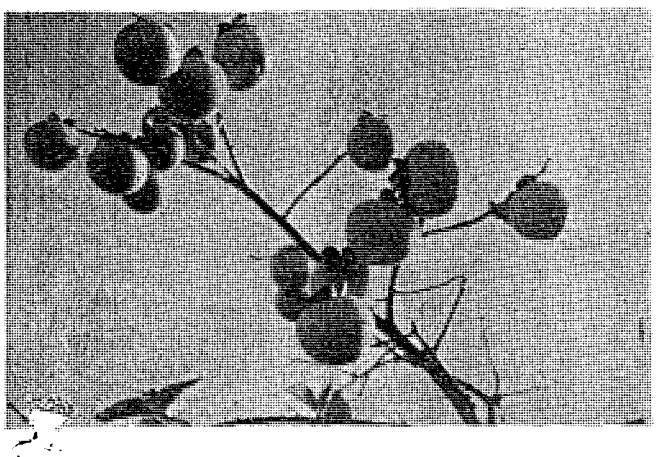
火の用心

一年中で一番火災の多い時期に入りました。

塩入政二
東国雄
山口重志

本町に大きな火災のないことは誠に喜ばしいことですが、これから先だんだん寒くなりますので火の元には充分注意して下さい。

火災の原因を調べてみますと、子供の火遊びによる火災が一番多いことになっております。このような子供の悪い遊びには特に注意を払って下さい。



秋

（ともき）

いや深みゆく
秋つ日に
実りゆたけき
畑つもの
たわゝに熟れし
赤き実を
欲りしてわめく
幼な子や
ひじりのひとみ
思はせて
深くも澄める
青き空

回覧は敏速に

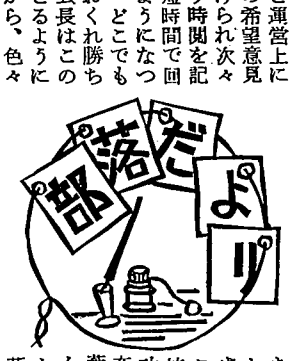
反土田中部落振興会（会長堂森直左ヱ門）は農家二四戸、消費者九四戸からなる部落で町内九一嘱託区の中でも七番目の大世帯、この部落は五班に分けて運営されているが、町役場その他からの伝達事項など回覧式で全戸もれなく敏速に伝達されている。回覧板は伝達事項とは別に受取時間の記入欄と運営上についての希望意見欄が設けられ次々に受取り時間を記入して短時間で回覧するようになっている。どこでも伝達はおくれ勝ちだが、会長はこの方法をとるようになってから、色々のことが部落の方々に解ってもらえるようになったと喜んでいる。

なお、部落に一歩はいると同じ規格の門札が全戸にかけられ、初めて部落を訪れる人々に明るい感じを与えている。

花作りに熱心な婦人グループ

木田みろく部落に婦人グループの一つ「みろく花卉栽培同好会」が本年四月一六日に誕生して家庭生活と直結した生産活動が行はれている。この会は会員お互の趣味向上と情操の涵養を目的に二十六名の会員から作られ会長（岩元ひでさん）を中心に年間事業として、栽培研究会、実績発表会、先進地視察、会員相互の圃場視察検討会、一坪花卉園の実背調査、品評会など計画を立て、結成直後先ず「あすたー」を共同で播種したが、花つくりのうちでもむつかしいとされたこの栽培に成功、現在では葉ぼたん、きんせん花、なでしこ、ふりーじや、るびなすなどが栽培されている。

なお、去る十月二日、吉野町の菊栽培の産地である下田部落を視察して帰ったが、今後高級花卉栽培の研究に力を入れたいと会員一同張切っている。



銀輪つらねて先進地視察

菖蒲谷――菖蒲谷農研究会員（一一人）はこのほど自転車で谷山町下場一帯の水稲裏作園芸農家と県園芸試験場を視察した。

永原――永原園芸研究会でも同じく自転車十六台をつらねて去る十月十四日吉田村大原の三十五町歩に亘る美濃早生大根と、吉野人参の栽培状況を視察、帰途鹿児島農芸高校の花培園芸場を視察した。

なお、この視察報告は先般行はれた「ひなば」の現地検討会で友直研究団体を囲んで行はれた。

お知らせ

農業改良普及員が変りました

このたび農業改良普及事務所の改良普及員木村藤夫氏は川内普及事務所に転勤することになり、後任に川内同事務所から松岡登記夫氏が着任しました。

公民館移転

加治木裁判所が新庁舎建設をはじめるので完成するまで公民館に仮移転することになり、公民館は役場二階に移転いたしましたのでお知らせします。

婦人会から贈物

去る十月三十一日、町婦人会を代表して会長の平山ひでさんと同書記の松井たみさんが役場を訪れ、二階にお上りのお客さんに使って下さいと、スリッパ（二〇足）と下駄箱がとどけられた。

陸海空自衛官募集

防衛庁では昭和三十一年度第四次自衛官の募集を次の要領で実施しておりますので応募者は町役場総務課に志願票二枚を提出して下さい。

一、採用人員
　二等陸士約七、〇〇〇名
　二等海士　約九〇〇名
　二等空士　約三〇〇名
二、資格
　昭和七年三月二日から昭和十四年三月一日の間に生れた中学卒業程度の学力を有し日本国籍を有する男子
三、受付期間
　十二月十五日まで
四、試験
　昭和三十二年一月十八日から一月三十一日までの間に行はれる。
五、入隊
　陸上は昭和三十二年末。
　海上、航空は五月以降遂次入隊
六、詳細は町役場総務課におたづね下さい。